

## 個性的なスタッフが働く職場。一番驚いたのはみなさんの対人能力。自分に足りないものが分かりました

### 参加のきっかけ：

映像関係の仕事をしたくて大学は映像も学べる新潟県長岡市の大学に進学しました。インターンシップに参加したのは2年生の時で、就職先の希望は「放送局ではなく、番組制作会社のディレクター」でした。地元岩手で働くのか、県外で働くのか明確なイメージは持っていませんでしたが、まずは地元でそんな職種のインターンシップを体験するのもいいかなと思い、インターンシップ先を探したところ盛岡市の映像制作会社が見つかり、参加を決めました。

### 参加してみて：

現場での仕事体験は、大学での勉強とは全然違いました。大学ではカメラを使って撮影したり、編集機を使って映像制作をしたり、テクニックを中心に学んでいます。実際の仕事現場ではそうした技術力も大切ですが、もっと求められるのはコミュニケーション能力だと分かりました。会社にはテレビ局の方、フリーのカメラマンやアナウンサーいろいろな人が出入りし、そうした方々と一緒にいかにスムーズに仕事を進めていくのがディレクターの大事な役目でした。取材先でも取材相手と会話をしながら撮影を進め、しっかり次の取材のポイントメントを取るなどすごいと思いました。ディレクターを希望している自分に不足しているのは、技術力だけでなくそんな能力だと気づかされました。特に印象に残ったのは、実際に番組のためのリサーチを行ない、飲食店紹介の30分番組の台本を作り、プロの方から批評をしていただいたことです。ディレクターの方から台本は完成度も高く、リサーチで得たネタはそのまま使えるという高い評価をいただき、自信になりました。

### voice: サポートデスク スタッフから

細屋さんは、自分が目指す映像制作会社のディレクターを体験できるインターンシップに参加しました。自分では「何もできなかった」と話すものの、受け入れ企業は「熱心にメモを取り、分からないことは質問をする積極的な姿勢」を評価しています。8日間のインターンシップを通しての一番の気づきは、コミュニケーション能力の大切さ。これはディレクターに限らず、対人関係がある仕事では必ず求められる力です。そんな気づきは、これからの学生生活を大きく変えるのではないかと期待しています。自分の希望する職種があって、実現するための一歩をインターンシップで踏み出した細屋さん。そんな積極的な姿勢が大きな成果につながりました。

### ＼体験したのは/

細屋 花さん

(盛岡市出身)

長岡造形大学

視覚デザイン学科

ある映像ディレクターが制作したミュージックビデオやCMがきっかけで、映像制作に興味を持ちました。大学では主に動画や写真の撮影を学び、所属する演劇部の活動も生かして、仲間と一緒にCMなどの動画を自主制作しています。

### ＼実施プログラム/

盛岡市の映像制作会社で8日間のインターンシップ

きさくや

実習先：株式会社企作工舎（情報通信業）

所在地：盛岡市肴町3-3 中津川スカイレジデンス1階102A号

事業内容：テレビ番組・CM・PR動画・

WEB用ビデオコンテンツの企画・制作

### 実施プログラムの主な内容

- 1日目 会社概要やディレクターの仕事について。番組ロケ地リサーチ
- 2日目 「岩手のアスリート応援番組」ナレーション録り
- 3日目 レストラン紹介の番組撮影、番組リサーチ
- 4日目 小学校卒業記念ビデオの撮影、番組リサーチ
- 5日目 番組リサーチ、飲食店紹介番組の台本作り
- 6日目 CM撮影、番組編集、ナレーション原稿作成の見学
- 7日目 試作台本の評価、検討。番組リサーチ結果の提出、評価、検討
- 8日目 仙台市の放送局で生放送見学